

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成 31 年 3月 15 日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>(ア) 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>(ウ) 教育課程及び指導上の工夫に関すること</p> <p>(カ) その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関すること</p>
調査研究のねらい	<p><b>【布施中】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校を様々な理由により就学あるいは卒業することができずに生きてきた高齢者、中国からの帰国者、「学び直し」の人、新渡日の日本語理解の難しい人など、多様な入学者に対してこたえていける教育課程の構築をめざす。</li> <li>・新しい場所に夜間中学を開講し、市内の広い地域で夜間中学の認知を広めるとともに、学習者の掘り起こしをめざす。</li> </ul> <p><b>【長栄中】</b></p> <p>本学級に在籍する生徒に限らず、現在の夜間学級の生徒は、年齢層もさることながら、国籍が多様であることが大きな特徴である。本学級にも現在8ヶ国の生徒が学習している。また、日本に戦前から在住する高齢の日本人生徒や在日外国人生徒が在籍する中で、渡日からの年数が浅い「新渡日」と呼ばれる生徒数が急激に増加しているのが現状である。特に本校には、ベトナム人、中国人、ネパール人、フィリピン人の新渡日生徒が多く、言葉が通じにくい中で日々先生方の努力によりコミュニケーションが保たれている。</p> <p>外国人生徒は、在籍年数の違いや渡日の経緯によって、生徒の日本語能力に大きな差がある。そのため、生徒に対しての学習指導には様々な困難があり、生徒個々の状況に応じた、きめ細やかな指導が課題である。職員は教材作成に関して、互いに協力しながら（校内や近隣の夜間中学校間でも）調査研究を日々重ねている。授業形態にも工夫を重ね、各先生方の持ち時間を工夫を凝らしてやり繰りし、必要に応じて別室指導や個別指導を展開している。また、本校は地域に開かれた学校というスタンスをポリシーとしており、地域住民を対象とする。「オープンスクール」や「夜間中学校まつり」なども、これまで通り、継続実施する。その中で、生徒が自己実現できる喜びや充実感を味わい、自らに誇りを持てる生徒に成長させたいと考えている。そして「生きた」日本語の表現力を身につけ、日々の生活の中で活用できるようにすることを研究の狙いとする。また、外国人の問題ばかりではなく</p>

	<p>、日本人や以前より在住の在日外国人の中にはまだまだ多くの識字困難者が存在することを常に意識しつつ、布施中学校夜間学級と力を合わせて、夜間学級の普及活動、啓発活動に力を注いでいる。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>(布施中)</p> <p>●調査研究の実施内容</p> <p>(1) 校内の教科研究研修と生徒指導及び人権にかかわる研修会を定例として実施した。</p> <p>(2) 長栄中学校夜間学級との合同研修及び合同教科研を毎月1回持ち、教育課程の検討や行事の見直しなどを行った。</p> <p>(3) 識字に関する研究会や大阪府内の識字学級や夜間中学などの学習者が集まって交流する場に参加をした。</p> <p>(4) 子どもたちや地域への発信する交流や事業を行った。</p> <p>●調査研究の成果と課題</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の蓄積、データ化を進めることができた。</li> <li>・既卒者のこれまでの背景を一定クラスや全校生徒の中で共有化することができた。そのことから、当該生徒も意欲的に学習に取り組むことができた。</li> <li>・抽出授業などを工夫して、既卒生徒の学力向上を図れた。</li> <li>・教材研究を積み重ね、夜間中学生の実態に合う授業内容を創り上げることができた。</li> <li>・外国人生徒にとって、日本の社会や生活を学ぶ授業を進めることができた。</li> <li>・生徒の思いや願い、夜間中学での学びを作文集として冊子にし発行できた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな状況の生徒が在籍している中で、教科研究・教材研究が多岐にわたり、一つひとつの内容を深めていくための工夫が個々の教員にゆだねられてしまいがちであった。</li> <li>・日本語を十分に理解できない生徒にとっては、内容の学習以前に日本語の学習に傾いてしまうこともある。</li> <li>・中国語のできる教員も配置されているが、生徒の第一言語に精通する教員配置の必要性がある。</li> </ul>

【長栄中】

◆調査研究の実施内容

【4月】年間指導計画の検討・策定。

【5月】年度初めの生徒情報交換。

A・Bクラスの国語の授業について研究協議。

【6月】全クラスの理科、数学、技術家庭の授業について研究協議。

【7月】C・Dクラスの国語の授業について研究協議。

【8月】夏季合同1日研修・・・年間行事の確認。

夜間中学校再編整備に関する問題提起とその研究協議。

【9月】全クラス社会（歴史）の授業について研究協議。

夏休みを経過して生徒の情報交換。

【10月】全クラス社会（現代社会）の授業について研究協議。

【11月】全クラス民族と文化にかかわる授業について研究協議

。

【12月】領域の枠をはずし、テーマ別に教材交流を行い、情報交換をする。文集「おとなの中学生」製作開始。

2月作品展に向けての美術作品制作の計画。

【1月】再編整備に関する問題事項の確認を両校で行う。

【2月】1年間の反省と、次年度の年間計画の研究協議。

【3月】文集の完成と配布作業を中心に。

校内の定例研修・・・

表現部会、教科部会、校内研修を1ヶ月に1回。

布施中学校との合同研修・・・

定例合同研修は1ヶ月1回。また、例年8月に1日合同研修を行い、調査研究の時間としている。今年は、教科指導生徒指導等の情報交換の他、再編整備計画の問題点を両校で出し合い、問題解決への方向性を探ることに時間を費やした。

◆調査研究の成果

・本校では、布施中学校との合同も含めて、1ヶ月に3回の調査研究会議を定例としている。その中で、夜間学級における学習指導や生徒に対する配慮事項などを研究協議している。

・本校では、生徒が文字の読み書きを通して自らを表現できることを目標に掲げ、学習指導に携わっている。

・視聴覚機器やICT教材を活用することで、日本語が初歩的な

生徒にも定着が図れるように工夫している。

- ・抽出授業も適宜取り入れ、日本語が理解できない生徒に、ひらがな、カタカナの基本から指導している。

- ・日本人生徒、特に高齢生徒や日本在住の長い在日外国人生徒、既卒学び直し生徒については、学齢期に学校に行けなかった経験や思い、戦前・戦後の混乱、被差別体験をひもとき、自らの言葉で文章化し、発表することに重きを置いている。

- ・それぞれの生徒が持つ課題を、それぞれの生徒で共有化できていることは、大いに成果点である。お互いのしんどさを理解することで、自分自身への力へと変えることができている。

- ・多くの小中学校や地域住民との交流会を多く催すことで、自らの活動成果の発表の場としての役割を持つと同時に、夜間学級での教育活動の発信の場としての役割も担っている。

- ・年度末にはその集大成として、それまでに学んだ日本語力で自らの思いや体験をつづるための作文指導を重視し、文集「おとなの中学生」としてまとめている。この文集は、夜間中学生の思いを伝え、夜間学級の存在意義を啓発するものにとらえている。今年で第32号を数える。

#### ◆調査研究の課題

- ・中国人生徒の在籍が多いため、中国語ができる教員は配置されているものの、入学生の多国籍化が進み、生徒の母語に精通する教員がどうしても手薄になっている。

- ・生徒の個人事情も含めて欠席する生徒が多く、継続的な指導に繋げることが困難な部分がある。

- ・特に、既卒学び直しの生徒の中には、障害者手帳の所持も含めて精神的・身体的な課題を持つ生徒が多く、そのための対策を立てることが危急の課題となっている。

- ・過去のつらかった経験の影響をを現在も引き続き持っている生徒も多く在籍しており、学習面ばかりではなく生活的な支えにならざるを得ない部分も多い。今後、関係諸機関も含め、専門知識を持つ方との連携も不可欠になると思われる